

anniversary issue

メットライフ財団支援

**itoこじま**



開設してからの入居者様との生活を、  
ご紹介させていただきます。

2024/10



# CHRISTMAS! !



12月 クリスマス会を開催  
みんなで部屋の飾り付けを行い  
地域の方にも参加していただき  
楽しい時間を過ごすことができました!

# 入居者様の日常生活



看護師による  
体調管理  
毎日一緒に  
居るからこそ  
小さな変化も  
見逃しません

OTさんと、日常生活  
動作リハビリ  
ロッカーの組み立て  
を一緒に  
頑張りました



春にたくさんの  
お花が  
咲きますように  
お花の苗を  
植えました



訪問診療の先生が  
定期的に  
診察してくれます  
優しい先生が  
皆大好き

もう一度だけ  
でいい  
パチンコに行って  
みたい  
そんな願いを  
叶えた日



入居者様 ご家族様  
介護士 看護師  
みんなでランチを  
楽しみます



皆で育てた野菜を使って  
カレーを作ったり  
朝のお味噌汁を作ったり  
自分達で育てた野菜は格  
別のおいしさです

itoこじまで  
飲み会開催  
近所の方も参加し  
て賑やかです  
地域に溶け込み  
楽しく過ごされて  
います



何でもない日常です  
が、自然と皆がリビング  
グに集まって  
お部屋に籠ることな  
く会話を楽しみなが  
ら生活されています

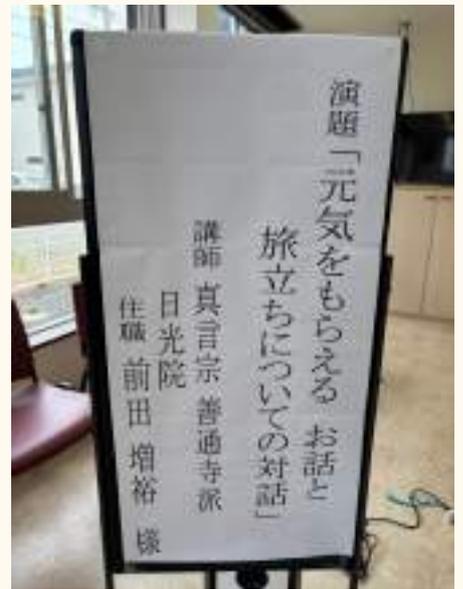
# 2025/5/30 大阪から民生委員の方が 見学に来られました。



## 民生委員様からitoこじまに頂いたご意見・感想

- ・病院でも施設でもないここでの看取りは、なかなか素晴らしいなあと思いました
- ・家で最後を迎えたいという気持ちがあるが子供たちに迷惑がかかる、ここならプライベートも守られて家庭的で良い
- ・ちゃんとした医療も受けられ、整備も整っていて環境も良い、費用もリーズナブルだと思いました
- ・隅々まで心配りされていて、ここに入居される方が羨ましく思います
- ・このような施設ではないアパートがあることに驚きました、今後も同様の場所を増やしてもらいたい
- ・住み慣れた自宅で最後の時を迎えたいと思うが、ここなら最後まで賑やかに過ごせそうだった
- ・近くにこんな場所があれば！最後の時をここで迎えたい！
- ・病院施設では様々な規定があるが、ここなら自由に生活ができる（飲酒・タバコ・外泊）本人の意思を尊重してもらえる
- ・我が市（大阪）にもこんな場所ができればいいと思った

# 2025/6/11 日光院から住職さんが 来てくださいました



悲しいのは  
心に仏がないから  
苦しいのは  
心に仏がないから  
淋しいのは  
心に仏がないから  
宮原隆史 裸説法より

「一切唯心造（いっさいゆいしんぞう）」

不安や心配事は心が生み出しただけ。その通りになるわけではない。

## 死後の世界について

この世界で絶対といえるのは死だけであり、誰もが必ず死を迎えるということ、死や未来に不安を感じるよりも 今、何をすべきか考え 今を大切に生きることが重要 安らかな死に方より安らかに生きる方が遥かに大切 欲を少なく持ち自分の身の丈に合った生活をする事で苦しみは半減し、日々幸せになる。極楽浄土は心の中にあり怒りが地獄許しが極楽である

# 看取り 事例1 N様 70代 女性

## 卵巣癌、多発肝転移、腎転移、癌末期

「目の前で母がひどく痛がっているのを見てもらえない、水分も取れない状況なのでどうにか助けてもらえませんか？」

と、娘様からお電話をいただき、すぐに医師と地域連携に連絡を取りました。有難いことに翌日の27日には無事にベッドの搬送や手続きなどが行われ入居することができました。

入居後からはとにかく苦痛の緩和に力を入れ、薬の種類や投薬方法など試行錯誤を繰り返し、その時その時で最善の状況となるように娘様・医師・看護師・介護支援相談員・その他にも大勢の方と協力しながらNさんの生活を支えていくことができました。

しばらくは穏やかに過ごすことができていたのですが、ある夜急に激しい痛みと苦痛を訴えられ唸りだしました。

娘様とDrに連絡をとり夜間ではあったものの、ご本人様含め今後の治療法を話し合いました。

ご本人様、娘様の意思を一番に尊重しPCAポンプで麻薬の注射を開始することとなりました。

どのような終末期医療を行うかを検討し判断し、患者、家族、医療ケアチームが合意に至るなら、その患者様にとって最も良い終末期医療だと考えられると感じました。

翌日、N様はとても穏やかな顔で眠るようにご逝去されましたが、それは娘様とご本人様が望んだ通りの最後でした。

遠方からお孫様や息子様すべての方がそろって皆が十分に悲しみ、しっかりとお別れができるまでスタッフは見守りました。

施設でも病院でもない、ご家族様が好きな時間に好きなだけ自由に訪れゆっくりとした時間の中でお母様に寄り添うことができるitoこじまだからこそできた看取りだったと思います

最後に、娘様から頂いたお手紙の一部をご紹介します

**「まだ、母の話になると涙が出てきますが、本当に穏やかできれいな顔で送り出すことができたこと、感謝しかありません。感謝の気持ちでいっぱいです。母の最期の穏やかな顔がすべてだと思います。ありがとうございました。」**



## 看取り 事例2 Y様 40代 女性

### 二次性膠芽腫の診断で腫瘍摘出

Y様のご入居を旦那様から、ご相談されたときのことを、いまでも鮮明に覚えています。

**「妻の事をとても大切に思っている、けれど2人の子供のことも守っていかなければいけない。」**

と様々な思いや事情を抱えてのご相談でした。

2人の子供が急激にかわっていく母親の姿を目の当たりにして、学校に通えなくなってしまった。何度も転倒を繰り返す母親が怖くて一緒に居ることができない。

悩んだ末にitoこじまに、妻を入居させることにしたがそれを鳥取の主治医に相談したところ、

**「子供ではなく妻の気持ちを最優先にするべきだと言われてしまったのでどうしたらいいか・・・。」**

旦那様はお仕事をしながら夜間も続く介護に疲れ果てている様子でした。

だから、旦那さんはもう十分に頑張っている、ここから先は一人で頑張らなくてもいいんですよ。とお伝えしました。

ご家族様にとっても、ご本人様にとっても苦渋の決断でのitoこじま入居でした。

脳腫瘍の増悪によって言葉がうまく出てこないY様。筆記やジェスチャーなどでコミュニケーションをとり、ここでの生活を少しでも楽しいと思ってもらいたい、安心して過ごしてもらいたい。全員がそんな想いでいっぱいでした。

旦那様も2人の子供様も、ご自宅とitoこじまを行ったり来たりしながら残り少ない時間をできる範囲で一緒に過ごされ、毎日入れ替わり立ち代わりお友達が遊びに来てくださり。賑やかで笑い声の絶えない毎日でした。Y様の目標がお子様の卒業式に出席することだったので、皆で一丸となってその夢を叶えようと頑張ったのですが、本当にギリギリのところでは叶いませんでしたが、最後の時はお子様と旦那様に手を握られ、たくさんのお友達が見守る中、旦那様の「よくがんばったね、ありがとう。もう頑張らなくてもいいんだよ。」そして、お子様の「ありがとう。」の言葉に、Y様は「うん。」と声を出し返事をして静かに息を止めました。意識もなく、反応もなかったY様の最後の声は奇跡だったとそう思います。

最後に旦那様から頂いたお手紙の一部をご紹介します。

「Yが隣に居ないんだなという現実と静かな部屋に寂しさを感じています。心も体もギリギリのところで踏みとどまっていますが、itoこじまに入居できて本当に感謝・感謝し  
かないです。

色々な方々の支えがあって妻は最後の時まで妻らしく過ごせました。この決断が本当に良かったのか悩んでいた時に看護師さんが、

（私たちができる限りのことをさせてもらいますので、旦那さんは本当にもう十分されていると思いますから）  
って言うてくれて肩の荷が軽くなりました。皆に支えられて妻と濃い時間を過ごせたことありがとうございました。」

itoこじま 施設でも病院でもない自分の部屋で 同じ難病を抱えた人々が悩みを相談しあったり励ましあったりしながら 最後の時まで自分らしく自由に。



# 看取り 事例3 A様 60代 男性

左上葉肺癌・肺門部リンパ節転移・右肩甲骨転移

Aさんがitoこじまに入居されて最初のころは、攻撃性が強く大声で怒鳴り、壁や机を蹴るなどの問題行動も多く看護師もどのように介入していけば良いのか悩みました。

車いすに座っていても体が常に傾き疼痛も強く麻薬のレスキューが1時間待てないような状況でした。

鋭い目つきでイライラしているAさんに看護師も距離をとっていたように思います。

このままではAさんにとっても、看護師にとってもよくないと考え、Aさんの生い立ちから現在に至るまでの家庭環境や病歴を一度じっくりと皆で話をする時間を作りました。

人生の半分を精神科の中で過ごしていること、幸せな家庭環境ではなかったこと、そんな中で癌が発覚し辛い闘病をしていること、そんなことを話し合う中で、itoこじま

**最後の時をどのように過ごせるかは、私たちにかかっている、それなら最後の時は今までの人生の中で一番楽しく幸せなものにしてやろう!**

私たちの気持ちが一つになってからはAさんへの声掛けも増え、会話が続くようになり、笑顔も多くなり、とうとう声をだして笑うようになり、中森明菜の歌を歌って、ギャグを言って私たちを笑わせる。

今までのAさんからは考えられない穏やかな日常を過ごすことができるようになりました。

レスキューの回数も減り疼痛の訴えも少なくなった頃、Aさんから

**「もう一回でいいから煙草が吸いたいよ。」**

と、お願いされました。

私たちの中でも、末期の肺癌なのに？ そんなことが許されるのかな？ いろいろな意見が出ましたがその判断は医師に任せることに。

怒られるかもしれないと覚悟して聞いたのですが、あっさりと、許可を頂けて。そしてそれをAさんにお伝えすると、とても嬉しそうに煙草の銘柄までご指定があり、すぐに用意して手渡しました。

**「ありがとう、ありがとう。」**

煙草を震える手で持ち吸いながら涙を流されていました。そんなことがあってからは、Aさんはある看護師のことは「お母さん。」と呼び、またある看護師のことは「お姉ちゃん。」と呼び、そして「きょうちゃん。」「課長さん。」看護師に面白いあだ名をつけて呼んでくれるようになりました。

家族のような関係になり、

**「○○が食べたいよう作ってー。」**

**「オレンジは嫌だリンゴジュース！」**

などわがままも言ってくれるようになりました。

その後も、もう一度パチンコに行ってみたい。自分の財布で自分がお金の管理をしたい。など、叶えたい想いや夢を語ってくれるたびに私たちはその夢を叶えるべく奔走しました。

**「もっと遊びたいよ、もっと遊びたかったよ。」**

その言葉がとても重く私たちの心に響いたから・・・  
たくさんの夢を叶えて、好きなものを好きなだけ食べて、  
大声で怒鳴るのではなく、大声で歌を歌って冗談を  
言って笑って。

周りのみんなの事も笑顔にして、itoこじまで命を終えました。

折を見てAさんの様子を見に来てくれていた保佐人の方や  
ケアマネさんから、

**Aさんがあんな風に楽しそうに笑ったりお話しされるの  
を初めてみました。itoこじまに来て夢を叶えて本人はと  
ても幸せだったでしょうね。ありがとうございます**

と声をかけていただきましたが、

相談すると翌日にはベッドをエアーマットに交換してく  
れたケアマネさん。本人の財布になくなること覚悟で、  
1000円入れてくださった保佐人さんにもAさんはとて  
も感謝していると思います。

Aさんの優しい声が今でも聞こえるような気がします。

「もう帰るんか？ 気を付けて帰ってな。また明日！」



**2025/5/31**

# **itoこじまでの看取りを 事例発表させていただきました**



倉敷中央病院

古久賀ホール

参加者 約100名

「在宅医療・在宅での看取りについて」

itoこじまでの事例をあげ“在宅医療に限界はあるのか？

今をよりよく生きる” をテーマに胡谷先生が講演されました

講演の後には質疑応答の時間がもうけられ、多職種の方々から

たくさんの質問や意見が飛び交い、itoこじまで行った在宅での看

取りを多くの方に知っていただくことができました



# 2025/7/12 カウンセリングの先生が 来てくださいました



カウンセリングの内容は個人情報となるためお伺いしていませんが、現在抱えている気持ちや感情を表出しスッキリしましたと言われていました

高校生の子が「お母さん、僕を最後にだっこしたのいつか覚えてる？」っていうから、なぜかと聞いたら、最後とは知らぬ最後が過ぎていく・・・(俵万智)という詩を教えてくれた。

ずっと悩んで苦しみ抜いた時にマリア様がやってきてそしてこんな言葉を呟いた

**“ありのままに”**

全てが暗闇に包まれた時彼女は僕のすぐそばに立っていてそうしてこう呟いたんだ

**“それでいいんだ”**

**”それでもいいんだ思いのままに  
生きればいい”**

そんな素敵な言葉が聞こえたんだ  
**“それでいいんだよ”**

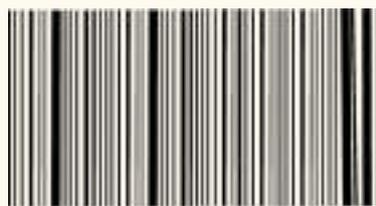


(ポールマッカートニー)



A place filled with love

**With the support  
of the MetLife  
Foundation**



2025